

読み解く力

鶴居村教育委員会教育長

村上 明寛

「つるいの子」第四四号の発刊に向けて、児童生徒へご指導いただいた先生方、並びに校務ご多忙の中、編集に当たっていただいた教育研究所の担当の先生方に心から感謝申し上げます。

今年度も、コロナ禍で家庭も学校も様々な制約を受けました。十一月以降は小康状態とはいえ、油断できない状況に変わりはなく、先生方には、子供たちの安全安心を確保しながら、学びを支えていただいていることに、あらためて感謝と敬意を表します。

さて、インターネットの普及で世の中は情報に溢れています。SNSの活用で誰もが気軽に情報の発信者になれる時代になりました。子供たちも同じ世界にいます。情報を発信する側には、自分の考えを相手に正確に理解してもらうための適切な表現力と、情報の受け手を慮る想像力が求められます。一方で、情報の受け手側にも、その情報の真意を捉える力が必要です。明治大学の斎藤孝教授は著書「大人の読解力を鍛える」の中で、「読解力」とは①芯で捉える力②文脈で捉える力③俯瞰して捉える力④複雑なものを要約する力⑤不要なものを切り捨てる力、と示しています。相手の伝えたいこと、中心は何かを考え、一つ一つの言葉だけでなく文のつながりを考え、文章の全体像を見渡し、「要するに」を整理することで、物事の真意を理解することができる、ということだと思います。清濁入り混じった情報の海で子供たちが溺れずに生きていくためには、このような、情報の真意を「読み解く力」を身につけることがとてもたいせつだと思います。

「つるいの子」は、子供たちが、詩、短歌、俳句、川柳、随想などを創作していく過程で、言葉の大切さを理解し、適切な言葉を選択する経験を積み上げていくことできる良い機会になっていると思います。と同時に自分以外の多くの作品に触れることができる機会でもあります。友だちはこの作品を通して何を伝えたいのかな、と考えることは、「読み解く力」のトレーニングの絶好の機会となり得ます。そこに「つるいの子」の発刊の意義があるのではないのでしょうか。これからも、鶴居の子供たちが、「つるいの子」を通して「読み解く力」を養い、豊かな人間性を備えた「鶴居びと」に成長することを期待しています。